

カワラゴミムシ *Omophron aequale aequale* Morawitz

【選定理由】

よごれのない河川の砂地に生息する種で、かつては名古屋市内にも生息していたが、河川敷の改変と汚れによって生息地が減少し、県内での種の存続への圧迫が強まっている。

【形態】

体長 5.5～6.5mm。体型は円形で、鮮やかなオレンジ色。頭部は広く緑色を帯びた金属色。前胸中央部に長円形の、上翅にはやや複雑な3条の帯条の緑色を帯びた金属色の紋があるが、上翅の紋には変異が多い。

【分布の概要】

【県内の分布】

弥富市、名古屋市、豊田市などから記録がある。

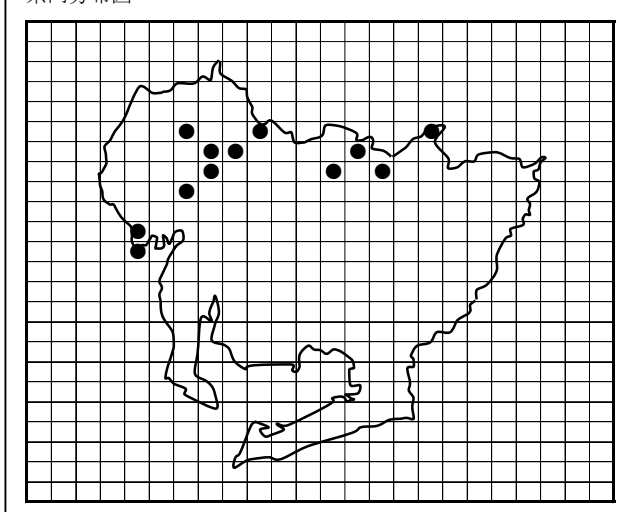
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

朝鮮半島、沿海州、中国。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

河川や湖などの砂地に生息する。日中は砂中に深く潜っていることが多く、夜間に砂地上や水辺などを徘徊する。また灯火にもよく飛来する。

【現在の生息状況／減少の要因】

弥富市鍋田干拓ならびに豊田市(旧足助町)の矢作川河川敷では1980年代後半に生息が確認され、その後も生息地の環境に大きな変化がないため、現在も生息していると考えられる。名古屋市では1950年代まで庄内川、矢田川から生息が確認されていたが、現在の河川敷の環境から判断して生存確認は絶望的。本種の減少の要因としては、河川改修あるいは汚染などによって生息地である砂地が消失したことが大きいと推定される。

【保全上の留意点】

生息地である河川等の砂地の確保が最低限必要である。河川の改修工事による大規模な砂地の改変は本種の存続に深刻な影響を与える可能性が高い。また、河川敷への四輪駆動車などの乗り入れは、生息地に多大な悪影響をもたらすため、慎むべきである。

【関連文献】

- 岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.
穂積俊文, 1990. 愛知県弥富町でカワラゴミムシ. 佳香蝶, 42 (161): 15.
吉富博之, 1994. 愛知県産甲虫類分布資料(1). 佳香蝶, 46 (178): 21-22.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)